

# 6年生国語科学習指導案

日時：平成19年2月8日（木）  
場所：6年生教室  
学級：6年生（男子11名、女子12名）  
授業者：瓜田 恵美

## 1 単元名 学習したことを生かして 「海の命」「今、君たちに伝えたいこと」「生きる」

### 2 指導の立場

#### (1) 教材観

本教材は、小学校生活最後の国語学習の単元として位置づけられている。『学習したことを生かして』とは、<生きる力>= $\times$ 自ら学び考える力>を<児童が、自らの力で教材と取り組み、今まで学んできた方法を生かして、楽しみながら自分なりに学習すること>ととらえた。したがって、この単元でつけたい力とは、今まで培った<読むこと>の力をフルに発揮して、<生きるとは>というテーマを見だし、自分の考えをつくることに重点を置きたい。

「海の命」は、海とかかわる中での少年の成長を通し、生きることや自然とのかかわり方を考えさせる物語である。卒業をひかえ、思春期にさしかかった児童にとって、父との関係や仕事をもつということまでも考えることができる作品である。6つの場面に別れ、それぞれの場面に、太一の思いをつかむための考えの核になるような意味深いキーワードがある。それを手がかりに太一の心の変化を読み進めていきたい。

児童は、これまでに「カレーライス」「やまなし」で物語文の学習をしてきた。「カレーライス」では、表現に即して登場人物の心情の変化を読み取るとともに、同年代の主人公と自分の成長を重ね、自己を見つめるという学習をした。「やまなし」では、描かれた表現を手がかりに情景を豊かに想像したり、作者の独特な表現方法を手がかりに、作者の生き方と重ねて想像しながら読んだりする学習をした。これらの学習から、場面の描写や表現方法に着目し、読み深めていこうとする意識はついてきている。

本単元では、「登場人物の気持ちの変化を優れた表現を味わいながら読み、作品の主題をとらえ、自分の考えをもつ力」をつける授業を仕組みたいと考えている。

#### (2) 児童の実態

つけたい力から見た児童の実態は以下のようなものである。

- |  |     |    |
|--|-----|----|
| A 登場人物の気持ちの変化を、前の場面とつなげたり優れた表現を味わったりしながら読み、作品の主題をとらえ考えを発表することができる。 | ・・・ | 9人 |
| B 登場人物の気持ちの変化を優れた表現を味わいながら読み、作品の主題をとらえ考えをもつことができる。                 | ・・・ | 8人 |
| C 登場人物の気持ちの変化を、場面や情景の描写から考えようとする。                                  | ・・・ | 6人 |

子どもたちは、いろいろなことを豊かに思いながら物語を読むことができる。しかし、その思いがどの場面やどの言葉から感じられたかを、明らかにしながら読み深めることが苦手な傾向もある。何となく読んでいては、主人公の思いや物語の主題をより深く、自分と結びつけて読むことはできないので、自分の考えの根拠を明らかにして自分の経験ともつなげ、読み深めていく力をつける必要があると考えている。

このような実態から、場面ごとの主人公の心の動きや変化をしっかりとつなげてつかませるために、情景や行動描写、会話に着目し、場面のつながりも、共通するキーワード（海の命）で意識できるように読み、人物の心情と主題を常に意識した発表ができる授業にしたい。

### 3 研究テーマにかかわって

研究主題

仲間と共に学び合う子の育成

～考え、学び合い、高まる授業をめざして～

#### (1) 研究内容1 「自分の考えをもつことができるようにするための指導のあり方」にかかわって

お父さんやお母さんに、これからの「生き方」について自分の考えを伝える意見文を書こう。

という単元を貫く課題を設定し、読み取り活動に必然性と意欲をもたせる。

また、貫く課題の五つの言語意識は次のようである。

相手：お父さん またはお母さん

目的：読み取ってきた作品の主題と、それに対する自分の考えをつたえる。

場面：意見文

方法：太一の心の変化を、情景や行動描写、会話に着目しながら場面ごとにつなげてつかみ、作者の意図を考える。

評価：太一の生き方がわかり、自分とどのように比べていたかがわかる返事をもらう。

(2) 研究内容2 「伝え合う場の設定のあり方について」にかかわって

仲間の意見とつなげて発表しあえる1時間にしたい。そのために、「場面のつながりや変化が分かる言葉」「情景がわかる言葉」「主人公の行動や思いがわかる言葉」を見つけたときに着目させ、自分はどうかとらえたのかをその言葉やほかの部分から、根拠をはっきりさせてつなげて話すことを価値付け、読み深める手だてとする。また、話し合いでより深く考えるための課題を途中で提示したり、それにつながる発表があったときに、立ち止まる場を設定する。

1 単位時間の流れを、[①課題についての一人読み。②一人読みの交流。③焦点化して読み深める。④学びの振り返り。]のようにパターン化することによって、見通しをもって授業に臨み、より意欲的に仲間との交流を進めらるようになりたい。

(3) 研究内容3 「1時間の学習の評価の場のあり方」にかかわって

本時では、つきたい力から、「興奮しながら」「泣きそうに」「ふっとほほえみ」の言葉に着目し、「おとう、ここにおられたのですか」と言うまでの太一の心の変化を考えたい。

学びの振り返りでは、話し方の形「〇〇さんの～～という意見を聞いて、～～と思いました。」と、自分の考えを文章と仲間の意見の両方でつなげて話せるように、型を提示する。

本時のねらい

長い間追い求めていた瀬の主であるクエに出会ったときの太一の気持ちを「興奮しながら」「泣きそうに」「ふっとほほえみ」という言葉に着目して読み、「おとう、ここにおられたのですか」と言う言葉に表される、クエをおとうと考えるようになった太一の気持ちの変化を読み取ることができる。

本時の展開

学習内容	教師の指導援助（・） 評価規準（＊）
<p>1. 課題の確認をする。</p> <p>貫く課題 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これからの「生き方」について自分の考えを伝える意見文を書こう</span></p> <p>本時の課題 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">クエに対する太一の心の変化を読み取ろう</span></p> <p>2. 今日場面から、太一の心の動きがわかる文を見つけ、本文に線を引く。自分の考えをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不意に夢は実現する</li> <li>・興奮しながら、太一は冷静だった</li> <li>・泣きそうに                      ・ふっとほほえみ</li> <li>・刃先を足の方のどけ、                      ・もう一度えがお</li> </ul> <p>3. クエに対する太一の気持ちを、見つけた言葉を根拠に交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探し求めていたクエをようやく見つけて、うれしかったと思います。</li> <li>・あまりにも突然で、おどろいたと思います。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>探し求めていた瀬の主のクエに出会えたのに、なぜ太一は「泣きそうに」なったのだろう。</p> </div> <p>4. 焦点化して読み深め、全体交流をする。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;"> <p>クエが「全く動こうとはしない」</p> <p>「おだやかな目」</p> <p>「殺されたがっている」</p> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>悠然としている</p> <p>海の命だ</p> <p>殺してはいけない</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太一は、瀬の主のクエを倒すぞという思いだったのが、瀬の主はおとうだ思おうとしたんだとおもいます。それは、教科書の「全く動こうとしない」「おだやかな目」をして悠然としているクエが、海の命そのものに思えてきたからです。だから太一は「ふっとほほえみ」「おとう、ここにおられたのですか」と言ったと思います。</li> </ul> <p>5. 課題についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>探し求めていた瀬の主のクエに出会えた太一は、クエを倒そうという思いだったのが、クエはおとうだという思いに変わったんだと思います。全く動こうとしないクエを見て、瀬の主のクエが海の命そのものに見えてきたからだと思います。                      B C</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>探し求めていた瀬の主のクエに出会えた太一は、クエを倒そうという思いだったのが、クエはおとうだという思いに変わったんだと思います。クエが悠然とありのままに生きている様子から、命はつながり、受け継がれていくものということが分かり、おとうや与吉じいさの海の命を大切にしてきた生き方が納得できたんだと思います。こんなふうに考える太一は、本物の漁師だと思います。                      A</p> </div>	<p>教師の指導援助（・） 評価規準（＊）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の太一の海に対する気持ちを確かめる。</li> <li>・場面の始めと終わりの太一の姿を比べ、課題に導く。</li> <li>・I・Sに対しては、太一の様子が表れている一文を示し、「このときの太一はどんな気持ちだろう」と問いかけ一緒に考える。</li> <li>・「追い求めているうちに夢は・・・」の「夢」とはクエを倒すことであることをおさえる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「興奮しながら」「こんな感情になったのは」「泣きそうに」の言葉に着目させ「夢」から「泣きそうに」なり、「ふっとほほえみ」「おとう、ここにおられたのですか」と言うまでの太一の心の変化はどのようなのか投げかける。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クエの様子を読み取り、「泣きそうに」なった太一の気持ちを考える。</li> <li>・自分の考えと、根拠になった文や言葉をはっきりさせてノートに書くよう、確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太一は〇〇から〇〇に変わったと思います。それは、教科書の△△から太一の□□と言うことが分かるからです。</li> <li>・私は〇〇さんの意見を聞いて、△△だということが分かりました。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・迷う太一の気持ちを想像するために、根拠にあげた言葉の理由を繰り返す。</li> <li>①これまでの太一の思いと、目の前のクエを重ねて考えるか。</li> <li>②今までの段落や、自分と比べてまとめが書けるか。</li> </ul> <p>*場面や情景描写、そして今までの段落での読み取りとつなげて、自然と共にあるおとうや与吉じいさ、クエに気づいた太一の気持ちの変化を読み取ることができ、ノートに書けている。</p>

